

令和7年度 墨田区立桜堤中学校 学校だより <5月号>

NEW EDUCATION AND TRADITION



スローガン：つなぐ伝統 築こう未来

発行日：令和7年4月14日(月)

発行者：校長 吉岡 大司

「少しの緊張」が大切

校長 吉岡 大司

新年度のスタートから1ヶ月が経とうとしています。4月は、真夏日となる日があり、夏には、どれだけ気温が上がるのか心配にもなりました。また、1年生も緊張がやわらぎ自然体で過ごせるようになってきました。しかし、学校生活は、いろんな価値観を持った同年齢の人が集まり、これから、生きていく社会で必要な行動や考え方を共同生活の中で身につけていきます。

だからこそ、「少しの緊張感」を持ち続けてほしいと思います。友達と関わる時、自分の感情に任せて行動したり、言葉を発したりしたら、ケンカにまでは発展せずとも、相手も自分も気持ち悪い雰囲気になったり、誤解されてしまうこともあります。もしかしたら、今までの関係で得た友情や信用を失ってしまうこともあります。どんなときも、たとえ仲の良い人に対しても相手の気持ちに立って考える、「少しの緊張感」ってとても大切です。5月になり、少しずつ学級もまとまりはじめ、休み時間は楽しく談笑する姿も多く見られ、とても微笑ましく思っています。各クラスの学級目標も決まりました。「少しの緊張感」を忘れずに、どのクラスも目標通りの素晴らしい学級に生徒たち自身が創り上げていくことを期待しています。

そして、3年生にとっては「中学校最後の〇〇の行事」が続きます。悔いを残さず全力で取り組んで欲しいと思います。GWの連休明けには、運動会練習が始まり、校庭から、各種目の練習を頑張っている様子が校長室にも聞こえてきます。そのあとは、3年生が、大阪万博・京都方面へ2泊3日の修学旅行に出発します。特別な3日間にしてくれることを期待しています。

さて、通勤途中、歩道の片隅で、「タンポポ」を見つけました。しかも、そのタンポポは、懸命に「春の到来」を告げていて、凜と咲く小さな花がとても「たくましく」感じました。そうです。「タンポポ」は、アスファルトの隙間など、あらゆる場所でも可憐な姿を見せます。その秘密は、地中深く伸ばした根にあるようです。「根」は長いものでは1mにも達するといわれています。花が咲いたあとの綿毛は、風に乗る土さえあれば、その場所に根をおろし、再び花を咲かせます。タンポポの英語名は、「ダンデライオン」です。語源は、フランス語で「ライオンの歯」という意味だそうです。ギザギザの葉っぱが、歯に似ていることから付けられたみたいです。ところでタンポポの花と呼んでいる部分は、本当は、小さな花。舌状花（ぜつじょうか）の集まりです。花の部分を全て含めて、頭花（とうか）と呼んでいます。隣の韓国でもこんなことわざがあります。

「길가의 만들레는 밟혀도 꽃을 피운다」

「道端に咲くタンポポは、踏まれても綺麗な花を咲かせる」この意味は、踏まれても雨に打たれても、強い風が吹いても、素敵な花を咲かせる「タンポポ」は諦めない心が「成功の道しるべ」となるということだそうです。

生徒たちには、「学びを諦めない」心で、頑張ってもらいたいと思っています。

結びに、4月18日（土）の保護者会には、多くの保護者の方々に足を運んでいただき感謝申し上げます。ゴールデンウィークが終われば、運動会や生徒総会、修学旅行、1年生移動教室、中間考査などがあり、行事が目白押しです。

運動会の練習では、保護者の皆様には、体操着の洗濯等ご負担をおかけすることもあります。ご協力をよろしくお願いいたします。24日（土）第13回運動会の当日は、多くの地域・保護者の皆さんがご来場されることお待ちしております。